

2025年11月10日

「今後の鉄道物流のあり方に関する検討会」中間とりまとめに対する KGI／KPIの達成状況について

標題のKGI／KPIについては2022年10月に策定し、その達成状況を決算時期に合わせ半年に1回公表することとしておりましたが、このたび、2025年度上半期実績及び下半期の取組みについて別紙のとおりとりまとめましたのでお知らせします。

別紙

KGI/KPIの達成状況について

【2025年度上半期実績及び下半期の取組み】

2025年11月10日
日本貨物鉄道株式会社

1. KGI(重要目標達成指標)

KGI（重要目標達成指標）	
2025年度コンテナ輸送トンキロ 目標	2025年度上半期 コンテナ輸送トンキロ 実績
・チャレンジ目標 209億トンキロ ・必達目標 196億トンキロ	79.1億トンキロ

2. KPI(重要業績評価指標)

視点1：貨物鉄道の輸送モードとしての競争力強化に向けた課題

課題	KPI（重要業績評価指標）		
	2025年度 目標	2025年度 上半期実績	● 2025年度主な取組内容に対する上半期トレース ○その他の取組内容 ☆下半期の対応方針
既存の輸送力を徹底的に活用した潜在的な輸送ニーズの取り込み	・チャレンジ目標 積載率 全日平均 81.2% ・必達目標 積載率 全日平均 76.5%	積載率 全日平均 72.2%	(1) グループ会社と協働する新たな総合物流体制の構築と稼働 ● 貨物駅の物流結節点機能強化に関して、積替ステーションを活用した遠距離集貨の新規輸送を実現 (2) 既存輸送力を徹底的に活用した潜在的な輸送ニーズの取り込み ● 31ftコンテナ輸送のご利用ニーズを踏まえたラウンド輸送を開始 ● 定温コンテナ輸送のラウンドマッチングの提案実施 ● 「物流統括管理者」(CLO)を選任されたお客様に対する働きかけを実施 ☆上半期に引き続き、お客様や3PL事業者への提案営業を実施 ☆流通業務総合効率化法の施行を受けた「物流統括管理者」(CLO)への働きかけ推進

課題	KPI（重要業績評価指標）		
	2025年度 目標	2025年度 上半期実績	●2025年度主な取組内容に対する上半期トレース ○その他の取組内容 ☆下半期の対応方針
これまで限定的な扱いとなってきた貨物への対応	定温コンテナ 輸送 11.2%増 (対2020年度比)	+ 11.5% (対2020年度比)	●片道輸送の解消、ラウンドマッチング提案の強化 ●お客様との連携の下、国の支援策等を活用し新規導入をバックアップ ●先行事例のある冷凍食品や医薬品について、これまでにご利用のないお客様や3PL事業者へ提案営業を推進 ☆上半期に引き続き、お客様や3PL事業者への提案営業を実施
	31ftコンテナ 輸送 17.4%増 (対2020年度比)	+ 18.1% (対2020年度比)	●国交省の「モーダルシフト加速化緊急対策事業」補助金を活用し製作した31ftコンテナを用いて輸送を拡大 ●お客様、3PL事業者と連携しラウンドマッチングのパッケージサービスを提供 ☆上半期に引き続き、お客様や3PL事業者への提案営業を実施
	中距離帯 輸送 23.8%増 (対2020年度比)	+ 11.9% (対2020年度比)	●ご利用が増えている区間の輸送力を増強する等、お客様のニーズに基づく弾力的な輸送力を配置 ●輸送余力の比較的多い区間（九州→関西、関西→新潟）については、返送私有コンテナの往復利用の促進等により、輸送量を拡大 ●リードタイム緩和や物流量の変化を把握・分析し、ターゲット区間を見極めながらお客様をリスト化しアプローチを実施 ☆引き続き、既存のアセットを最大限活用し中距離帯におけるネットワークを整備

課題	KPI（重要業績評価指標）		
	2025年度 目標	2025年度 上半期実績	●2025年度主な取組内容に対する上半期トレース ○その他の取組内容 ☆下半期の対応方針
これまで限定的な扱いとなってきた貨物への対応	5tに満たない小口貨物混載・共同輸送の定期ルート設定	小口混載のプラットフォームを進める事業者と定期ルート設定に向けた検討を実施	●小口混載のプラットフォームを進める事業者と連携し、輸送区間を特定して新たな商品を提案 ☆輸送区間を拡大してサービス展開を強化
	積替ステーション設置 対象全駅への設置を完了（22駅）	1駅（名古屋(タ)） （対2025年度目標） 22駅中16駅完了	●上半期は1駅（名古屋(タ)）への設置を完了 岐阜(タ)駅積替ステーションと同様に利用運送事業者営業所に開設 ☆駅毎の様々な状況に応じて、柔軟に「積替ステーション」を開設 ☆「積替サービス」を付加した「積替ステーション」の設置を推進 ☆下半期は6駅の設置を検討中
国際海上コンテナの海陸一貫輸送の対応	・輸送ニーズ、事業性の確認 ・官民一体となった持続可能なスキームの構築 ・事業性判断後低床貨車発注	●駅見学会の開催等輸送ニーズの掘り起こし、輸送体系の適正化を実施 ●港湾運営会社の支援制度を活用 ●低床貨車の試作車2両が落成	●宇都宮事業(横浜本牧⇄宇都宮(タ))について、駅見学会の開催等による輸送ニーズ掘り起こしを実施も、運賃競争力が確保できず、また、主要荷主の低迷等から発送個数は減少。運転回数、車数等の輸送体系を適正化 ☆往復マッチングとなるよう、荷主及び船社等への働きかけや他社ICDとの連携を行い、輸送量の確保を目指す ●港湾運営会社の港内ショートドレージ支援を活用 ☆京浜港と各貨物駅との連携性を高めるべく、荷主・船社等の関係者と連携し、駅見学会等を開催しPRを行うとともに、継続的なご利用の促進を図る ●次世代低床貨車の試作車2両が落成 ☆上記低床貨車の走行試験を実施

課題	KPI（重要業績評価指標）		
	2025年度 目標	2025年度 上半期実績	●2025年度主な取組内容に対する上半期トレース ○その他の取組内容 ☆下半期の対応方針
災害時をはじめとする輸送障害への対策強化	BCP対策会議 新設 2都道府県以上 (累計5都道府県以上で開催)	BCP対策会議 新設 1都道府県	●北海道札幌市にて、「北海道地区（室蘭線）における鉄道物流の災害による輸送障害に対するBCP策定に向けた官民一体の検討会」を2回開催 ☆災害リスクが高い東北地区（八戸貨物～盛岡(夕)間）が被災したケースを想定し、代替輸送ルートの確保に向けて、北東北地区におけるBCP策定に向けた官民一体の検討会の開催を計画
	災害時山陽線 カバー率 50% (2030年度)	コンテナホーム拡幅、駅本屋新設、代行トラック駐車場整備の各工事を実施	●コンテナ仕訳1番線ホームの拡幅工事を実施（2025年11月使用開始予定） ●新駅本屋建設工事を実施（2025年11月使用開始予定） ●代行トラック駐車場の整備工事を実施（2025年11月整備完了予定） ○代行トラック駐車場への通路整備に伴う電車線移設・軌道撤去等の関係者との協議を実施。施工は2026年度予定 ☆コンテナ仕訳1番線ホーム使用開始後、ライナー線側のホーム拡幅工事に着手 ☆新駅本屋使用開始後、旧駅本屋の撤去に着手
	輪重測定装置・トラックスケール整備 対象全駅への整備を完了（95駅）	8駅に整備 (対2025年度目標) 95駅中70駅完了	●2025年度に施工を行う各駅の調査設計・工事工程の作成を実施 ●8駅の整備を完了（東京(夕)、四日市、北見、富良野、滝川、東室蘭、大館、延岡） ☆下半期中に25駅の整備を完了 （新座(夕)、名古屋(夕)、名古屋南貨物、南松本、速星、西大分、千葉貨物、倉賀野、苫小牧貨物、富山貨物、南長岡、横浜本牧、安治川口、東福山、宇部、下関、仙台(夕)、沼津、新南陽、酒田港、北長野、新居浜、松山貨物、小名浜、半田埠頭）

課題	KPI（重要業績評価指標）		
	2025年度 目標	2025年度 上半期実績	●2025年度主な取組内容に対する上半期トレース ○その他の取組内容 ☆下半期の対応方針
災害等 輸送障害 発生時の 対応力強化	ホームページの 改善	ホームページの 「輸送情報」につ いて、地図等を用 いた表示・ページ の仕様を決定	●ホームページの「輸送情報」について地図等を用いた情報提供に向けて、具体的なフォーマットや提供する情報を整理 ☆ホームページの改修を進め、パイロット版の公開を目指す
新たな社会的 要請への対応	自衛隊との 定期的な 意見交換	1回開催	●防衛省より提起をいただいている輸送案件につき、関係事業者等と連携を取りながら課題整理、対応策の検討を実施 ●自衛隊の演習に伴う専用列車運行（成果の実証）の準備 ☆専用列車を運行し、引き続き、定期的な意見交換を実施
新幹線による 貨物輸送拡大 に向けた検討 の具体化	貨物新幹線車両の 設計検討	既存業務へのマテ ハン技術導入を検 討	○将来的な貨物新幹線車両での活用も視野に入れ、既存業務への段階的なマテハン技術の導入について検討を開始。荷物の運搬、管理作業をターゲットに調査を実施 ☆マテハンメーカーと合同で既存業務の調査を実施し、作業の効率性向上のため、マテハンメーカーが保有する技術の導入を検討

視点2：貨物鉄道と他モードの連携に向けた課題

課題	KPI（重要業績評価指標）		
	2025年度 目標	2025年度 上半期実績	●2025年度主な取組内容に対する上半期トレース ○その他の取組内容 ☆下半期の対応方針
誰でも いつでも 利用できる 体制づくり	・物流MaaS JR貨物グループ の運送業務におけ る受発注のIT化及 び共通化計画の 策定	JR貨物ロジ・ソ リューションズ(株) が構築を目指す 「総合物流事業シ ステム」の要件定 義を完了	●JR貨物ロジ・ソリューションズ(株)が展開する総合物流事業を推進するため、 目指している「受発注のIT化」に関して、システム構築を支援。 上半期は、要件定義（システム構想の具体化）と使用ツールの計画検討を進め、 システム導入スケジュール策定まで完了 ☆引き続き、同社における「受発注のIT化」を支援。 下半期はシステム構築を完了させ、期中での業務利用（実稼働）開始を目指す
パレチゼーショ ンの推進	パレットデポ設置 対象全駅への 設置を完了 (22駅)	養生材レンタル型 デポを設置(2駅) (対2025年度目標) 22駅中14駅完了	○「コンテナ養生ボード」を対象とした養生資材レンタル型デポの設置を推進 (百済(夕)、札幌(夕)) ☆「養生材レンタル型」デポの設置推進
貨物駅の高度利 用・貨物鉄道の スマート化の 推進	レールゲートから の発送 7,889個 (対2024年度比 3%増)	6,141個 (対2024年度比 223%増)	●鉄道用クロスドック機能の営業活動推進 ●鉄道利用顧客へのテナントリーシング ☆新規テナントの入居に伴う安定的な鉄道利用と拡大への取組み ☆鉄道未利用テナントへの提案営業

KPI（重要業績評価指標）

課題

2025年度
目標

2025年度
上半期実績

- 2025年度主な取組内容に対する上半期トレース
- その他の取組内容
- ☆ 下半期の対応方針

貨物駅の高度利用・貨物鉄道のスマート化の推進

コンテナ留置レイアウトの見直しによるキャパシティ拡大
(累計900個分を完了)

用途廃止コンテナや私有コンテナの整理により152個分のキャパシティを生み出し
(累計912個分を完了)

- 倉庫代用としていた用途廃止コンテナの整理・処分を実施
- ☆ 引き続き、点検コンテナ置き場見直し、コンテナ留置向き変更によるデッドスペース活用、用途廃止コンテナ及び倉庫コンテナの整理・処分、不要な設備の撤去等により、キャパシティ向上を図る

視点3：社会・荷主の意識改革に向けた課題

KPI（重要業績評価指標）

課題

2025年度
目標

2025年度
上半期実績

- 2025年度主な取組内容に対する上半期トレース
- その他の取組内容
- ☆ 下半期の対応方針

貨物鉄道輸送の特性に関する認知度向上

鉄道輸送による消費エネルギー概算手法の策定

多様な走行条件下においても、概算手法が一定の精度で適用可能であることを検証

- 鉄道総研の協力により開発した消費エネルギー概算手法を用いたCO2排出量算定精度の確認線区を拡大して検証を実施
- 駅での荷役作業におけるCO2排出量の試算を実施
- ☆ 主要線区の検証が終了し次第、その他線区にも着手し、ホームページ上の検索画面との連動についても検証していく

貨物鉄道利用促進の制度設定

荷主に対するインセンティブ案の確定

インセンティブとしてJ-クレジットの活用を検討

- 荷主への経済的インセンティブとして、鉄道へのモーダルシフトによるCO2削減効果をクレジット化する仕組み（J-クレジット）の確立に向けて関係機関との調整を実施
- ☆ 顧客ニーズに応えるため、証書については、上記CO2算定の精緻化をもって発行する